

令和5年8月30日

清水町議会議長 山下清美様

清水町議会総務産業常任委員会
委員長 中河つる子

所管事務調査について

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

1. 調査事項 地域おこし協力隊の現状について
2. 調査期日 令和5年8月8日～9日
3. 調査先 企画課・鹿追町・新得町

4. 調査の結果

清水町の地域おこし協力隊の配置方針と活動状況について、企画課から説明を受け調査を行った。また、鹿追町と新得町を訪問し、各町の配置方針と活動状況について視察を行った。

【調査先での聞き取りや確認事項】

清水町では地域おこし協力隊として、役場内勤務の隊員が3名、畜産支援員として活動している隊員が1名在籍している。また、現在2名の協力隊を募集しているが応募がない状況を確認した。応募がないという課題を整理し、目的を明確にして計画立てた募集を行い、自

由に考えてもらえる体制を整えなければならないという課題について担当課が認識していることを確認した。また、協力隊員からは清水町を選んだ理由として、「交通の便がいいこと」、「農業の町ということで自分の理想と一致した」点があげられ、町の魅力によって応募につながっていることを認識した一方、定着していない理由の一つとしてサポート体制が弱いと感じる面もあるとの意見も聞いた。

また、鹿追町では、募集段階から町の総合戦略の推進として、地域おこし協力隊の制度を活用しながら地域課題解決につなげる取り組みを行っており、地域おこし協力隊の活動を町内の企業から広く募集し、その活動を行うために、地域おこし協力隊を研修派遣の形で募集を行っていた。実際に、「鹿追マンゴープロジェクトコンソーシアム」事業と、国際交流センター平成館に出向き、直接活動状況や応募のきっかけ等を聞き取り調査する現地視察を行った。

新得町では、地域おこし協力隊の活用は、新しい事業を推進するために隊員を受け入れたいという企業からの提案により募集を行っており、町と企業が一体となって内容を十分に審査、検討したうえで募集を行っているとの説明を受けた。その一環である北海道拓殖バス株式会社が新しく事業を立ち上げた「拓鉄キノコタン」の取り組みでは、将来的な雇用の創出を目指した事業展開の説明を受け、しいたけ栽培に携わる地域おこし協力隊から業務内容や苦慮している点など、現地にて直接聞き取りを行った。

清水町では、期間終了後にそのまま定住している協力隊員が少ないのが現状であるが、鹿追町においては、募集する際に期間終了後に町内で起業するか、もしくは活動企業において雇用が見通せることを明示し、期間終了後のアフターフォローをしっかりと行う体制を構築していた。また、新得町では、任期満了後に住宅の借上げや働く場所の問題で転出してしまう隊員を出さないために、任期中からの相談、サポートが重要であるとの認識を持っているということから、定住率が高く推移していると思われる。

【総括】

視察を行った鹿追町、新得町は、地域おこし協力隊の業務について、募集の時から民間の知恵を活用しながら、地域一体で受け入れる体制

を構築している。また、協力隊の任期終了後の定住に繋がるように、終了後の相談、サポートを活動中から行っていること、特に地域の企業との情報共有、課題解決に向けての相談を密に行い、新たな起業を目指す隊員の準備やサポートをしていることは本町としても学ぶべき点だと考える。また、協力隊と町民とのふれあいが生活においては非常に大切であることから、地域での人間関係を構築できる様々な機会を創出していくことも重要であると考えます。

清水町でも両町の優れたところを参考に、地域おこし協力隊の活動が地域と隊員の将来にとって、真に役立つものとなるように取り組みを充実していくことが必要と考えます。

以上、総務産業常任委員会の所管事務調査の報告とする。